

りんごネットワーク

=異種連携による自殺防止アクション=

(実施期間) 平成 23 年度～相談会
平成 26 年度～ネットワーク

(基金事業メニュー) ー

(実施経費) 116 万 3000 円

(実施主体) 青森りんごの会
(青森多重債務被害等をなくす会)

【事業の背景・必要性】

自殺に至る要因は複数存在し、平均すると 4～5 個と言われている。それらが絡み合った問題に対して、関係機関単独での対応では困難である。そこで、一つのケースに対し、地域一帯の弁護士・市町村保健師・在宅保健師・精神保健福祉士などが「スクラム」を組んで対応するのが本事業である。民間団体がネットワークを主宰することで、職種や行政単位を超えた連携を実現している。なお、本事業は、平成 24 年度から厚生労働省自殺防止対策事業先駆事業となっている。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

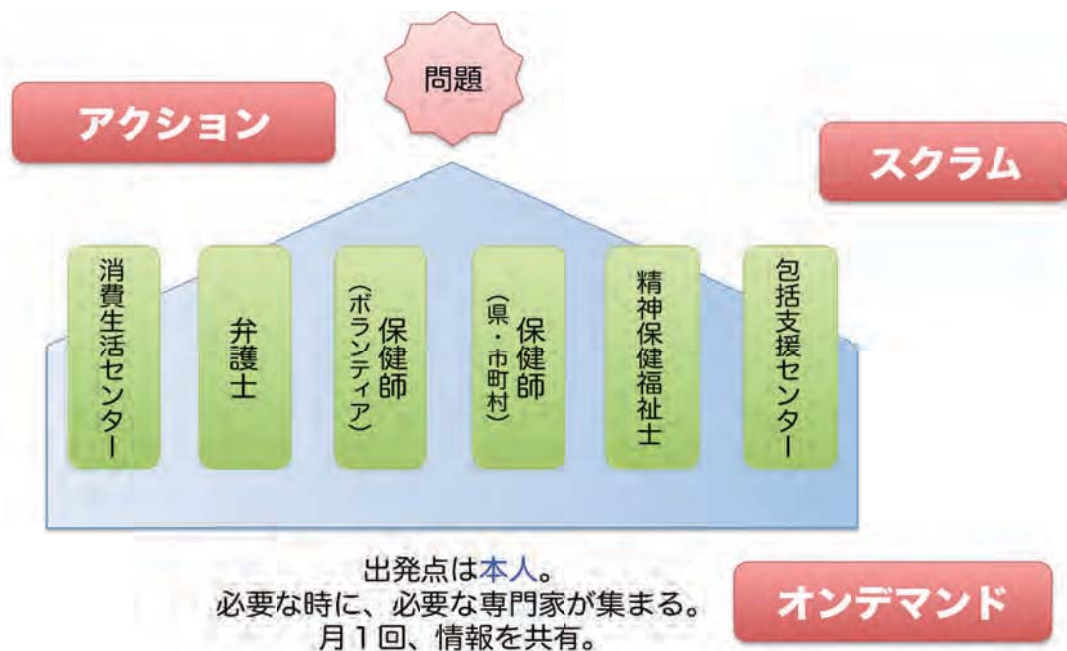
上十三保健所管内（十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村）の自殺率は、平成 15 年の 53.1（人口 10 万人対）をピークに減少傾向にあるものの、25 年で 30.2 と青森県全体の 23.3 と比較し高い状況が続いている。

(人口動態統計平成 24 年)

活動地域	総人口	年齢区分別人口(割合)	
		年少(0～14 歳)	老年(65 歳以上)
上十三保健所管内	180,978	13.2%	26.3%

【事業目標 事業内容】

弁護士・保健師・精神保健福祉士が相談担当者となる「借金とこころの無料相談会」を開催し、その後ネットワーク会議（事例検討会）を開催している。この活動には、3つのキーワードがある。



6 社会的な取組で自殺を防ぐ①

① アクション

りんごネットワークは、目の前の現実の問題を解決することを目的としている。その意味で、仮定事例を題材とした検討会や会議ではなく、行動（アクション）である。

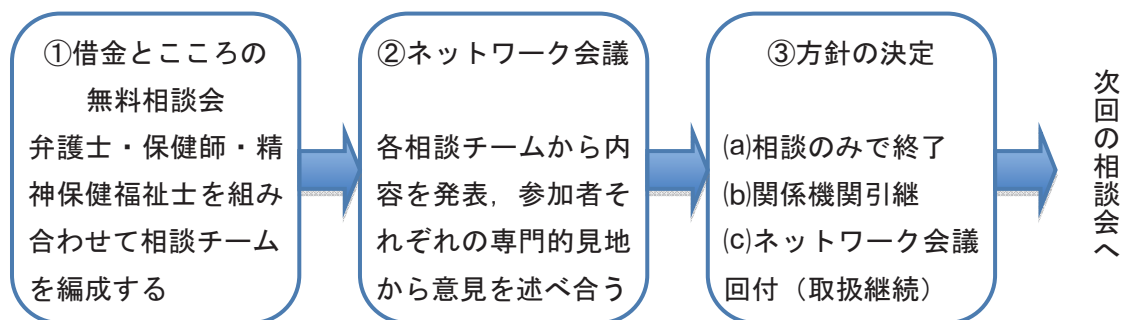
② オンデマンド

問題解決の方針を考える出発点は本人である。「本人にとって今何が必要なのか」を重視し、必要な時に、必要な専門家同士で相談して方針を決める。したがって、基本的に、物事を決定するためにいちいち会議を行わず、全体では、月1回のネットワーク会議で情報を共有する体制にしている。これを「オンデマンド方式」と呼んでいる。

③ 連携プレー

「独りで活動していたら、独りよがり。連携して初めて、それぞれの活動も輝く。」と考えている。つまり、複雑なケースに対しては、関係機関が連携して初めて自分の専門分野も活かすことができるのである。そして、りんごネットワークにおける連携とは、窓口の間で「パス」をするのではなく、問題の解決に向けて関係機関が共に「スクラム」を組むことである。

【事業実施にあたっての運営体制】



・上記③(c)ネットワーク会議回付について

ケースに応じて主担当を決める。関係機関が持ち込んだものであれば、通常はその機関が主担当になる。ネットワーク会議での意見を参考に、主担当者が対応する。途中で検討課題が生じた場合、必要な専門家同士で方針を決定する（オンデマンド方式）。経過報告を、次のネットワーク会議で行う。

つまり、ネットワーク会議では、当日の相談案件と取扱継続中のケースについて検討・方針決定を行っているのである。このネットワーク会議こそ、本事業の「要」である。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

平成23年度から26年度までの相談会にて、68名（実人数）から相談を受けた。26年度から始めたネットワーク会議では7件を取り扱った（1件解決済み）。

（ケースの一例）振り込め詐欺被害から家族問題・自殺念慮が生じたケースでは、弁護士・保健師で対応し、3回の面談を経て落ち着いた。精神疾患と借金を抱え、劣悪な環境の建物に引きこもっていたケースでは、精神保健福祉士が住居（グループホーム）を確保、弁護士が自己破産手続を行った。

（協力団体）セーフコミュニティとわだをすすめる会、十和田地区退職保健師桜の会、青森県上十三保健所、八戸市、十和田市、三沢市、七戸町、六戸町ほか。

（問合せ先） 青森りんごの会
TEL：080-6057-3792
E-mail:ringo-no-kai@excite.co.jp
URL：http://ringo-no-kai.com